

第2章 農業の概況

1. 作物生産状況

「エ」国の農業は、大きく三つの地域に分かれる。標高1,000～3,000mに広がる比較的温暖な気候の山岳地域（シェラ）、熱帯気候の海岸地域（コスタ）及び内陸の熱帯雨林でおおわれたアマゾン地域（オリエンテ）である。この中でオリエンテでは、特定の地域で僅かに畜産業が営まれているにすぎず、また、農業部門では、限られた耕作地での中小農家による生産性の低い伝統的農業が行われている程度である。

一方、シェラとコスタの農業には次のような特徴がある。シェラでは主として単年生の基礎食糧となる食用作物が中心に生産されており、生産物は国内市場に供給されている。これに対して、コスタでは主として米及び輸出用永年作物が生産されている。農業形態は、シェラでは山岳地域での高地農業であり、コスタでは広い平地での農業が営まれている。栽培作物としては、シェラでは小麦、大麦、トウモロコシ、フリホール、ジャガイモなどが主な生産物であり、一方、コスタでは米、落花生、綿、大豆、カカオ、コーヒー、バナナ、オイルパーム、サトウキビ等が主に生産されている。

主要穀物の輸入量の推移を表2-1に示す。2000年を例にとると、国内需要に対する輸入量の割合はトウモロコシで20.4%、小麦で95.5%、米で0.4%であり、特に小麦において輸入に依存している割合が高い。また他の食用作物も割合的には小さいとはいえ、国内需要を満たすには輸入する必要がある。

表2-1 主要食用作物の輸入実績

(単位：t)

年度	トウモロコシ	ジャガイモ	小麦	フリホール	米	大豆
1997	116,885	621	492,637	1,110	848	32,586
1998	374,367	282	500,570	1,243	121,568	17,268
1999	253,554	109	457,105	610	1,002	-
2000	156,863	301	414,106	698	5,998	310

(出典：FAOSTAT 2002)

同国の主要食用作物の生産量、作付面積及び単収を表2-2、表2-3及び表2-4に示す。1996年と2001年を比較すると、トウモロコシは作付面積が556,220haから459,608haへと減少したものの、単収は1,075kg/haから1,398kg/haへと1.3倍に増加しており、その結果、生産量も597,657 t から642,444 t と1.07倍に増加した。同様に、ジャガイモは作付面積が7%減少したが、単収が1.63倍に増加し、その結果、生産量も1.52倍に増加した。米も作付面積は4%減ったが、単収が1.4倍に増えており、その結果、生産量も1.1倍の増加となった。また、大豆については作付面積の21%の増加に加えて、単収は1.13倍に増え、生産量も1.67倍に増加した。一方、小麦については、作付面積が11%減少、加えて単収も0.79倍に減った事より、生産量も0.71倍に減少した。フリホールの作付面積は15%減で、単収も0.8倍に減り、その結果、生産量は0.71倍に減少

した。

1996年-1997年のエル・ニーニョによる影響によって、1998年は主要食用作物の総生産量が前年(1997年)比0.83倍に減少したが、小麦及び、フリホールを除いて、トウモロコシ、ジャガイモ、米及び大豆は単収が増加したことにより、生産量も増産傾向にある。また、同様に作付面積も1998年は前年比0.79倍であったが徐々に拡大傾向である。この単収増に伴う生産量増加は、「2000年農牧省行動計画」による資材投入(2KR供与による肥料を含む)が成果を現したものと推察できる。しかし、表2-5のとおりトウモロコシの単収は世界平均の約3分の1に過ぎない状況にある。

以上のように、「エ」国の食用生産状況は生産量及び、作付面積の増加傾向にあるものの、依然として輸入依存度が高く、また単収が世界平均に比して低レベルであることから、安定的自給に至るには困難な状況であるといえる。

表2-2 主要食用作物の生産量

(単位：

t)

作物名	1990-91	1996	1997	1998	1999	2000	2001
トウモロコシ	490,000	597,657	687,526	382,464	500,314	611,058	642,444
ジャガイモ	368,000	453,900	601,838	534,105	562,657	593,293	689,770
小麦	27,000	27,600	19,879	19,787	19,011	17,378	19,596
フリホール	26,211	41,783	41,422	30,489	30,573	25,882	29,804
米	852,000	1,269,660	1,071,541	1,042,992	1,289,684	1,354,500	1,377,180
大豆	169,694	77,700	9,425	10,235	76,824	102,406	129,855
計	1,932,905	2,468,300	2,431,631	2,020,072	2,479,063	2,704,517	2,888,649

(出典：FAOSTAT 2002)

表2-3 主要食用作物の作付け面積

(単位：

ha)

作物名	1990-91	1996	1997	1998	1999	2000	2001
トウモロコシ	456,615	556,220	573,000	355,998	423,544	443,703	459,608
ジャガイモ	51,775	65,300	66,269	57,939	60,451	57,915	60,701
小麦	37,290	29,855	26,644	30,519	27,154	24,925	26,707
フリホール	50,310	63,050	63,385	55,955	57,652	47,737	53,533
米	276,545	396,000	316,425	325,329	366,130	375,501	380,272
大豆	87,290	61,667	8,293	8,065	42,373	64,329	74,719

合計	959,825	1,172,092	1,054,016	833,805	977,304	1,014,110	1,055,540
----	---------	-----------	-----------	---------	---------	-----------	-----------

(出典：FAOSTAT 2002)

表2-4 主要食用作物の単収

(単位：kg/ha)

作物名	1990-91	1996	1997	1998	1999	2000	2001
トウモロコシ	1,077	1,075	1,199	1,074	1,181	1,377	1,398
ジャガイモ	7,173	6,951	9,082	9,218	9,308	10,244	11,363
小麦	731	925	746	648	700	697	734
フリホール	522	663	654	545	530	542	557
米	3,055	3,206	3,386	3,206	3,523	3,607	3,622
大豆	1,941	1,260	1,137	1,269	1,813	1,592	1,738

(出典：FAOSTAT 2002)

表2-5 トウモロコシの単収の比較

(単位：kg/ha)

作物名	地域(国名)	1996	1997	1998	1999	2000	平均値
トウモロコシ	エクアドル	1,075	1,199	1,074	1,181	1,377	1,181
	世界平均	4,230	4,140	4,430	4,360	4,230	4,278

(出典：FAOSTAT 2002)

2. 農業資材の生産、輸出入統計

「エ」国では、肥料は国内で生産はされておらず、全て輸入に頼っている。肥料の輸出入統計を表2-6に示す。

表2-6 肥料の輸出入統計

(単位：千ドル)

年	1997		1998		1999	
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
単肥	1,373	0	1,356	0	1,342	1
化成肥料	16,783	681	18,015	168	16,084	50

(出典：FAOSTAT 2002)

統計上は特に化成肥料において、若干の輸出が見られるが、これは、単肥を輸入し混ぜ合わせるだけのバルクブレンドのものを近隣諸国に加工商品として輸出していることによる。極僅かな量の輸出であり、しかも1997年以降その規模は縮小傾向にある。輸入量も伸び悩んでいることから、全体的に「エ」国の肥料調達に充当すべき資金の不足と、それに伴う輸出向け加工肥料の減少という関係が読み取れる。

3. 財政、国際収支バランス

「エ」国の重要な産業は農業であるが、特にコーヒー、バナナ、カカオ、砂糖等の輸出が「エ」国財政において大きな影響力を持つ。また「エ」国の輸出産業として石油産業も重要な位置を占めているが、1986年以降石油価格が下落している。さらにコーヒー等第一次産品の価格も急落しており、「エ」国経済は低迷している。更に地震災害(1987)やエル・ニーニョ(1996-97)等の自然災害の被害によって、1999年の対外債務は130億ドルとなった。これに対応すべく、「エ」国政府は通貨であるスクレを変動相場制に移行し輸出競争力強化を図ったが、結果はスクレが暴落し、インフレが再燃することになった。1998年の総輸入額は56億ドルで、輸出額42億ドルに対し14億ドルの貿易赤字を出している。

肥料については、輸入に全量頼っている現状にあるが、逼迫した財政状況のもと、その輸出規模はむしろ頭打ちになっている。2000年度2KRにより調達された肥料は金額に換算すると415万ドル相当であり、1999年の肥料輸入実績(表2-6参照)1,743万ドル(単肥と化成肥料の合計)の24%を占めている。このような「エ」国の困難な経済状況の下、肥料を投入し、主要食用作物の増産を目的とした2KRは、外貨支援の側面からも有効な援助である。

なお、「エ」国におけるここ近年の国際収支バランスは表2-7のとおりである。

表2-7 国際収支バランス

項目	1998年	1999年	2000年	2001年
経常収支	-2,099	917	920	-801
貿易収支	-1,132	1,587	1,394	-463
輸出	4,326	4,615	5,137	4,862
輸入	-5,458	-3,028	-3,743	-5,325
サービス収支	-563	-451	-420	-519
所得収支	-1,171	-1,308	-1,406	-1,363
経常移転収支	767	1,089	1,352	1,544
資本収支	1,315	-1,863	-6,619	541
資本勘定収支	14	2	-2	-67
直接投資	870	648	720	1,330
証券投資	-34	-46	-5,583	117
その他資本収支	612	-1,946	-1,739	-440
誤差脱漏	-147	-521	-15	-399
総合収支	-784	-944	-5,697	-259

(出典：International Financial Statistics, January, 2003)